性商品化から子ども守る

2016.1.6

つなぐ
明日へ－2016

人身取引被害者サポートセンター
ライトハウス
瀬川愛葵（あいき）さん(24)

寄り添うことで世界変える

児童買春に児童ポルノ、JK（女子高生）ビジネス―。「性の商品化」による子どもたちの被害が深刻化しています。

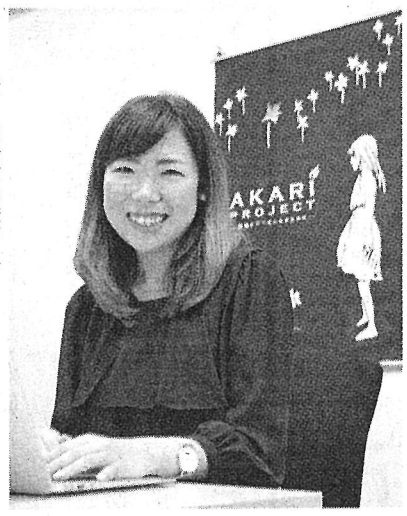
「子どもの性が売り買いされない、一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりたい」

被害者の救済、支援をおこなう「人身取引被害者サポートセンター ライトハウス」の瀬川愛葵（あいき）さん（24）の決意です。

スタッフ最年少ながら、広報・アドボカシー（政策提言）マネジャーを担います。議員との面談、企業関係者や教師を対象にした講演もおこないます。

訴えるのは深刻な実態と対策の弱さ。警察庁のまとめでは、2014年の1年間で摘発された児童ポルノ事件は1828件と過去最多です。

「誰でも被害者になりうる。そして計り知れない傷を子どもたちに与えていることを知ってほしい」



ライトハウスの瀬川愛葵さん

AV出演強要

今もっとも多い相談が「AV（アダルトビデオ）への出演強要」といいます。街頭などで「芸能プロダクションです」「モデルやらない？」などと言葉たくみに勧誘。事務所へ連れ込み契約書にサインをさせ脅す―。

相談支援スタッフは、弁護士とも協力し、AVの販売停止、ネット画像・動画の回収、ときには業者との直接交渉もおこないます。売春や性風俗を辞めさせてもらえないという相談もつきません。

子どもや若者たちの性が暴力的に搾取される現実に向きあう日々は「精神的にめいる」ことも。「その感覚も大事にしたい。慣れてはいけない。被害者が抱える傷や孤独は、私の感じる痛みとは比べものにならない」

「被害者にも加害者にもならないために」と高校や中学校での〝出前授業〟もおこないます。街やネットにあふれる性情報を「当たり前にしてはいけない。そこに踏みつぶされている人権を考えてほしい」と伝えます。生徒たちの「こんな社会は許せない」という「純粋な反応がうれしい」。

性犯罪の危険性を分かりやすく伝える啓発マンガ『ブルー・ハート』。瀬川さんたちが企画し、昨年発行。台湾では中国語にも翻訳され配布されました

夢は子の安心

小学2年生から2年間、米国で過ごしました。自分たちの住む「豊かで安全な街」のすぐ隣にあるスラム街。「世界はなんで、こんなに不平等なの」という思いが芽生えました。七夕の短冊に「世界平和」と書きました。

高校生のころ、モンゴルの子どもたちに図書館を贈る募金を呼びかけました。友人に「救えるのは数百人でしょ。何の意味があるの」と言い放たれても諦めませんでした。

氷点下30度を下回る大地。ゲル（遊牧民の移動式住居）にストーブをたいた図書館には、貧しくて学校へ行けない子どもたちが毎日100人以上も来てくれました。

「あのとき思ったんです。目の前の一人に寄り添い、地道に向き合うことで世界は変えられる。この思いはずっと変わりません」

今も日々の活動は「本当に地道」とほほ笑みます。

「夢は世界中の子どもたちが安心して笑顔で生きられる社会をつくること。きっと壁は多いけれど、今は自分にできることを地道に精いっぱいやりたい」

（芦川章子）

相談窓口ホットライン

相談窓口はホットライン電話0120（879）871（平日午前10時～午後7時）。メール soudan@lhj.jp